



ひともし蓄(たくわ)うるなく 口にする量(ほどよさ)あり

その心境(おもい)は空(くう)にして
形相(すがた)にとらわれず かつ 解脱(げだつ)をえたり
かかる人のゆく道は たずぬるによしなし
まこと 空とぶ鳥に 跡なきがごとし

(法句経 92)

◇新・法句経講義 68 ◇

<※ 「新・法句経講義」は、巻頭ページ掲載の法句経について解説しています。>

「欲を言えばキリがない」という言葉がありますが、人の「欲」には、際限がありません。仏教の目指すところは、この「欲」のコントロールです。

とはいえ、まったく「欲」を無くして、ガリガリになるまでの「断食」をしろというのではなく、蓄えなどなくても、「ほどよく食べ」、「欲」を断ち切っていれば、それはもう「解脱」している、というのです。

そうした人は、欲にとらわれ、欲をかかえ、欲にしばられている人と違って、空を飛ぶ鳥のごとくに、どこに行ったかも分からないように、自由にゆうゆうと進んでいける。そんな教えが、ここに説かれています。

年齢が進むと、あれもしたい、これもしておきたい、あれも残したい、これも残したいと思いがちですが、そうした「思いを残す」のではなく、蓄えは少なくとも、適当に食べ、適当に楽しんで過ごす、そんな生き方ができれば、心も軽くなって、空を飛んで行く鳥のように、自由にのびのびと、時を過ごせるかも知れません。

仏教豆知識 87

念

念を入れる、念のため、念力、入念、など、「念」には、思いを集中して、心を込める意味があります。「念仏」は、一心にその名を称え、祈る行為です。

念という字は、「今」と「心」で出来ています。「今」というのは、時を止めるという意味です。流れる時間を止めて、はじめて「今」が生まれます。ですから「念」は、心を止めること、集中することを言います。

神田寺の「仏教勤行式」に出てくる「六念」は、念仏、念法、念僧、念戒、念施、念天のことで、それぞれに心を込めることをお誓いするものです。

<主管所感>

宗教と寄附の精神

友松浩志

旧統一教会の事件で、「宗教と寄附」のことが社会問題となっている。安倍元総理暗殺の原因につながった、多額の寄附を強要した宗教団体への批判。確かに、寄附しなければ悪いことが起こるとか、何かの霊に取りつかれるなどの脅しは、脅迫行為であり、論外のことだが、どんな宗教でも、それが今日まで存続しているのは、多くの信者たちや信徒の方々からの寄附によるものであるのも事実である。

仏教教団がインドに成立したのも、多くの信者や信徒が僧侶に住む場所を与え、食料を提供したからである。そのことは、仏教を学んだ誰もが知っていることであり、先々代の当寺主管・友松圓諦師は、仏教教団の収入と分配について大きな研究書を残している。

そもそも仏教は、人々からの自主的な「施し」(施食:せじき)を前提に成立している。仏教は、仏様の存在を信じ(南無仏)、仏様の教えを信じ(南無法)、仏様に仕える人を信じる(南

無僧)ことを基本に、自らの欲心をなくし、人に役立つ人間になって、より完成された存在(菩薩)に近づく教えである。正月の初詣でお寺や神社にお参りした方も多いと思う。でもそれで、絶対「商売繁盛」するとか、幸福が訪れると確信した方はないだろう。神仏への祈りというのは、無報酬の信念であり、自己習練の決断である。

お布施やお賽銭というのは、代価を求めるものではなく、ともに生きる神仏へのお礼・施しである。宗教は商売行為ではないが、その運営には費用がかかる。不動産収入や事業収入がある寺社も多いが、それがなければ、寄附や布施収入がなければやっていけない。歴史的に宗教は、国や統治者に保護され、寄附を受けて存続してきた。しかし、そうした保護がなくなった現在、その運営は生やさしいものではない。自主的な「寄附の精神」「施しの心」を、もう一度真剣に考え、それをいかに守り育てていくか、宗教界全体が、今こそ真剣に考え、そのあり方を社会に示していく必要があるように思う。

◆西墓地合同墓利用始まる◆

近年の少子化や家族構成の変化によって、家族単位のお墓の維持が難しくなったかたに向けて、合同墓の設置が各地で進んでいます。ロッカー式や地下金庫式のものなど、様々で



すが長い年月のことを考えると、寺院内に付設された、地上にあるものが安心だと思います。また、樹木葬という形式が

が宣伝されていますがほとんどは芝生墓地で、あまり従来の個人墓と変わらないものです。本当に樹木の下に墓地を作ると、本の根が入り込んで改修の難しいものになります。

当寺の合同墓は、どなたにも安心して使用して頂けるものと思います。檀信徒のかた以外でも新規にお申込み頂けます。また、個人での利用も可能です。ペット用の棚もあり、ペットの受け入れもできます。使用料など、お気軽にお問い合わせ下さい。

◆新年修正会

新年の幸せを祈る「修正会」(しゅしょうえ)が今年も元日の午後2時から、神田寺の会堂で行なわれました。

全員で神田寺の勤行式で読経の後、主管の法話があり、そのあとお茶で歓談しました。新年の抱負を発願録(ほつがんろく)に記して、思いを語り合いました。



なお、来年から「修正会」は西墓地別院で元日の午後、自由墓参と合わせて行なう予定でおります。

▲ 法話のあと神田寺の会堂にて

<真理ニュース>

◆彼岸会 春の彼岸会は、昨秋のお彼岸と同じ対応で実施します。

① 法要参加・・・3月21日(火) 午前10時・12時・午後2時の3回、西墓地別院で法要を行ないます。(各回先着20名、東墓地の方も参加できます。)

・当日は自由墓参とし、両墓地ともお墓での読経を随時行ないます。

・両墓地で、お土産のお寿司を用意しております。(午前9時～午後4時)

② 塔婆供養・・・同封の葉書(春彼岸会塔婆供養申込書)でお受け致します。

・先祖供養塔婆は、1本:3000円です。(振込用紙をご利用下さい。)

・戒名を入れた個別供養塔婆をご希望の方は、別途官製はがきでお申込み下さい。(個別供養塔婆は1本:4000円です。)

③ 墓地管理費も、同封の振替用紙にて送金頂くか、墓地でお支払い下さい。

◆小規模保育

・真理学園幼稚園の小規模保育は、4月1日(土)より開始します。

◆入園式

・新年度の入園式は、以下の日程で行なわれます。

真理学園幼稚園:4月3日(月)、神田寺幼稚園:4月4日(火)

◆慣らし保育

・真理学園幼稚園:4日・5日・6日、神田寺幼稚園:5日・6日・7日

◆始業式

・真理学園幼稚園は7日(金)、神田寺幼稚園は10日(月)に行ないます。

◆花まつり

・お釈迦様の生誕をお祝いする「花まつり」は、本年も白象パレードなどは中止となります。

・10日(月)から、玄関に花御堂をお飾りします。自由に灌仏(お釈迦様の像に甘茶をかけること)が出来ます。

◆真理舎の会(法句経による仏教講話) 今年の予定は以下の通りです。

・4月14日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて
(兼・降誕会)

・6月9日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて

・10月13日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて

・12月8日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて
(兼・成道会)

「仏教勤行式」による読経と、友松浩志主管の仏教講話が行なわれます。関心のある方は、どなたでも参加できます。(無料・自由献金)

◆今号より表紙構成など若干変更しました。新しい年度、コロナ対策にも変化があるようですが、新たな気持ちで再スタートしたいと思います。



たとえ拾いあつめて作(つく)れる

見ぐるしき衣をきるとも

身(からだ)はやせ 脈管(ちのすじ)あらわなるも

ひとり林中に 心しずめたるもの

われかかる人を 婆羅門と語(い)わん

(法句經 395)

◇ 新・法句經講義 69 ◇

<※ 「新・法句經講義」は、巻頭ページ掲載の法句經について解説しています。>

「洋服の墓場」が、アフリカ奥地の砂漠にある、と報道で目にしたことがあります。文明国の人たちが使い捨てた、膨大な服の山は異様なものでした。

お釈迦様の時代、布は大変貴重なものでした。糞掃衣(ふんぞうえ)という言葉が残っていますが、ゴミために捨てられた布を拾ってきて、それを縫い合わせて布を作ってそれを着ていたと言われます。僧侶の袈裟が、細かい布を縫い合わせて作られているのは、その故事に由来します。

布は、人が発明した貴重な素材です。それは、動物の毛や虫の出す糸、植物の繊維などから作られ、大切に扱われてきました。それが工業化の過程で石油から作られるようになると、安価なものが大量に生産されるようになり、そのうえ、

近年格安の既製服が作られるようになって、服の大量廃棄が始まったようです。

どんな貧しい服を着ていても、血管が浮き出るようにやせていても、その人が林の中にひとり静かに瞑想するような人であれば、それは立派な修行者である、とお釈迦様は述べられています。きらびやかに着飾るよりも、もっと大切なことがあるという静かな教えです。

仏教豆知識 88

禪

「禪」(ぜん)というと「禪宗」の禪、「座禪」の禪で、仏教の最も大切な修行方法のひとつです。禪とは、ディアーナ(dhyana)またはジャーナ(jhana)の音写語、「禪那」(ぜんな)の省略形で、仏教以前からヨーガの修行法のなかで実践されてきたものを仏教が取り込み、精神的傾向を深めたものといわれます。

大乘仏教では、六つの実践(六波羅蜜)のひとつとして「禪定」(ぜんじょう)をあげ心を定める方法として重視しています。

<主管所感>

顔のもつ役割

友松浩志

園庭のハチの巣を取ろうとして、長い棒でつついたら、たくさんハチが出てきた。その一匹が私の方に突進してきて、鼻の下に食らいついた。棒を持っていたので防ぎようもなく、ひどく噛まれた。すぐに水道で毒を洗い流したが、翌朝、私の顔は腫れ上がり、娘いわく、新しい「ポケモン」ようになった。

鏡にうつった私の顔は、自分でも恐ろしかった。幸い、まだマスクを着けている人も多く、出来るだけマスクを着けるようにした。顔を隠していると、少し安心できた。

顔は、人を識別するために最も大事なものだ。もしみんなに顔がなかったら、誰が誰だか分からなくなる。いや、このコロナの間、実際にそういう状況が起こっていた。元来、人の顔を覚えられない私は、新しく入った幼稚園の先生など、誰が誰だかまったく分からなくなった。

それは、幼稚園の子ども達にとっても同じだったと思う。先生の顔が、半分しか見えない不安。友だち同士だって、お互いどんな気持ちでいるのか、なかなか判断できなかったのではないだろうか。それが3年も4年も続いたのだから、将来のことが心配に

なる。

顔は、その人を判断する大切なツールだ。あの人はどんな人なのか、顔で判断することも多い。ちょっと暗めの顔をしていたら、慎重な人なのかと思い、明るい顔をしていたら陽気な人かと思う。実際はそうでなかったとしても、そう判断してしまう。

悲しい顔、楽しい顔、きびしい顔、けわしい顔、いろいろな顔が、その時その時に入れ代わっていく。仏像の顔はたいてい優しい、慈愛に満ちたものだが、ときにきびしい顔の仏様もいる。その顔を見て、優しさに包まれたり、けわしさに勇気をもらったりする。

顔の見えない時代が終わって、少しホッとした今、顔の持つ役割を改めて思い出して、表情豊かに過ごしたいものだ。そして一刻も早く、顔の腫れがおさまることを、個人的には願っている。

令和4年度・事業報告 ◆ 学校法人 真理学園

■ 事業実績 ■

<法人全体>

・コロナ感染対策のため、数回学級閉鎖を行なった。教育活動・行事活動では、衛生管理につとめた。消毒液などを継続的に購入した。

<神田寺幼稚園>

・感染状況を見ながら、行事を復活(夏のお楽しみ会、秋の遠足、運動会、卒園式等)、冬のお泊まり保育は、感染拡大のため実施間際で中止となった。

・屋上の防水工事を実施。

・教職員の補充が困難になったため、真理学園幼稚園から出向を求めた。

<真理学園幼稚園>

・感染状況を見ながら、行事を復活(春の遠足は分散実施、夏のお泊まり保育実施、運動会、秋の遠足実施、卒園式等)。

・一部テント、ブラインドカーテンの改修工事を実施。

・園児数が引き続き減少した。

・未就園児クラス(プチもも)を中止した。

■ 学校評価 ■

<自己評価>

・コロナ感染対策は、園内でのクラスターの発生もなく、職員の感染も自宅での感染等に限定され効果が確認された。

・ITによる園業務管理は、本年度も一部トラブルが発生したが、概ね順調であった。

<関係者評価>(保護者代表による)

・行事の復活は、園活動の活性化で有り難いが、参加する保護者の数等、保護者間で本年も不満が見られたので、引き続き配慮が望まれる。

・IT導入は、概ね好評である。

・神田寺幼稚園周辺の環境悪化について、防犯や風紀保全のための配慮が一層望まれる。

・教職員の不足については、社会全体の人手不足と連動して大変だと思うが、人材確保に努力して欲しい。

■ 圓諦忌 <50 回忌>のご案内 ■

-----神田寺会堂で一年遅れで厳修-----

神田寺の先々代住職・主管の友松圓諦師が亡くなって、昨年は50回忌となりました。昨年その50回忌法要を予定したのですが、コロナ感染が拡大したため、急遽一年延期とさせて頂きました。改めて、本年11月16日(命日)に50回忌法要を実施させて頂きます。



・11月16日(木)午後3時より4時30分

・於:神田寺会堂

・当日は、神田寺仏教勤行式による法要/圓諦先生の講話録音の再生/現主管のお話、の予定です。

・当日のご香資、供花、お供物等は不要でございます。

ご記帳のみお願い申し上げます。

・駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用のうえご参集下さい。

・当日、圓諦先生の著作本(一部)の販売を行ないます。

■ 彼岸会/神田寺会堂で再開 ■

4年ぶりに神田寺会堂での法要を再開します。コロナの間、西墓地別院を使用して法要を行なってきましたが、式場もせまく、また東墓地の方にはご参加になりにくい場所でもあったため、神田寺での開催を考えてまいりました。ただ、以前のように一度に会場に集合するのを避けるため、2回法要を行ない、バスも半分にして2回運行と致します。

・9月23日(土:祭日)午前10時/12時の2回法要

(ご参加の有無を、事前に申し込み葉書でお知らせ下さい。)

・法要と法話。お土産のお寿司は、神田寺で配布致します。

・両墓地まで、**大型バスでお送り致します。**(帰りの駅までの送りはありません。)

・**お塔婆は、申し込み葉書**で事前にお申し込み下さい。当日、神田寺でお渡し致します。

・当日は、ご希望の方に、両墓地で随時読経を行ないます。

<真理ニュース>

◆お泊り保育

コロナも一段落し、今年も真理学園幼稚園では7月21日と22日に「お泊り保育」を実施しました。1日目は「プラネタリウム見学」「きもだめし」「花火大会」、園内での就寝、カレーは調理室で調理しましたが、2日目の園外活動など、ほぼコロナ前と同じメニューで行なわれました。

神田寺幼稚園では、夏の「お楽しみ会」として7月20日に実施しました。「きもだめし」や「花火大会」など、友だちと夏の思い出を作りました。

◆夏の保育

夏休み中の保育(朝の保育・延長保育を含む)は、例年と同じく希望者に実施しました。

◆彼岸会

久しぶりに、神田寺会堂での法要を実施します。

① **法要参加** 9月23日(土) 午前10時・12時の2回、神田寺会堂で法要を行います。

・出席される方は、ご案内に同封の申し込み葉書でお知らせ下さい。

・法要と法話があります。お土産のお寿司の配布があります。

・両墓地まで、大型バスでお送りします。

・当日は、両墓地ともお墓での読経を随時行ないます。

② **塔婆供養** 同封の葉書で、事前に受けつけ致します。

・先祖供養塔婆は、1本:3000円です。

・戒名を入れた個別供養塔婆をご希望の方は、別途官製はがきでお申込み下さい。(個別供養塔婆は1本:4000円です。)

・お支払いは当日か、同封の振込用紙をご利用下さい。

◆**圓諦忌(50回忌)法要** 11月16日(木)午後3時から、1年遅れとなりましたが、神田寺会堂で実施します。

・法要後、圓諦先生の講演録音を聴いて頂き、主管からのお話があります。

・ご香資、供花、御供物のご心配は不要でございます。

◆真理合の会

10月13日(金)午後1時30分～3時神田寺仏間にて

12月8日(金)午後1時30分～3時神田寺仏間にて(兼・成道会)

・主管による分かりやすい仏教講話があります。お気軽にご参加下さい。



学ばんとする人こそ この地をのりこえ

またこの死の世界と 神々をもつ世界とをのりこゆ

学ばんとする人こそ かの巧みなる職人(ひと)の

華(はな)をつみ集むるごとく

善く説(と)かれたるこの法句を

つみ集め得ん (法句経 45)

◇ 新・法句経講義 70 ◇

<※ 「新・法句経講義」は、巻頭ページ掲載の法句経について解説しています。>

コロナ感染も落ち着いてきて、学校の授業も通常のかたちに戻ってきているようです。学ぶというと、学校での学びを思い出しますが、そればかりが学びではありません。新聞を読んだり、テレビを見たり、インターネットを見ても、学びはあふれています。

最近、インターネットの「授業」のような番組を見ていて、こんなに分かりやすく講義してくれたら、学校時代、もっと理解できたのと思うことがしばしばあります。(ボン

ヤリと授業に出ていた自分が悪いのかも知れませんが。)

人生も晩節になって、若いころよく分からなかったことを理解しておきたい、知っておきたいと思うようになりました。分からないまま、知らないまま終わりにたくないという、変な欲求が出てきたようです。

電車に乗ると、10人中8人がスマホを見ています。ほとんどがゲームか動画を見ていたり、ラインなどで会話しているようです。折角の時間、それを学びに役立ててくれたらな、と思います。

最近、「なぜ学ぶのか」といった本が、何冊か出版されているようです。その結論は「人生を豊かにする」とか「幅をひろげる」とかいうもののようです。お釈迦様の結論は、「この生死の世界をのりこえる」ため、というのです。学びは、大きな世界の入口へのカギなのかも知れません。

<修正会のご案内>

元日の午後2時から、神田寺の会堂で「修正会」(しゅしょうえ)を行ないます。

新年の平安と幸せを祈念するこの行事に、是非ご参加下さい。初詣のお帰りに、秋葉原のお寺にお立ち寄り頂いて、新年の思いや願いを語り合しましょう。

※参加費なし。おみやげ、あります。

<主管所感>

祖父の講話を聴いて

友松浩志

祖父・圓諦上人の50回忌に、その講演録音を参会の皆さんに聴いて頂こうと思い、久しぶりに何本かの録音テープを聴いた。今時、カセット・テープなどほとんど使用されないが、案外よく音が残っていて、問題なく聴くことができた。

さすがに、その語り口のうまさに関心した。昭和初期のラジオ放送で、爆発的な人気を獲得したというのも納得できる。現在行なわれるいろいろな講演と比較しても、けて見劣り(聴き劣り)しない、「面白い」話しを聴くことができる。

この話術の才能は、残念ながら父にも私にも遺伝しなかった。祖父は、いつどんな方法でその才能を身につけたのだろう。いろいろ推測することはできるが、その原動力は多分コンプレックス

にあったのだと思う。

祖父が仏教経済学の学者になったのは、寺の子として「今度、いつオトムライがあるんだ」とからかわれ、イジメられ、寺のあり方、僧侶の生き方について真剣に勉強に励んだ結果であることは広く知られている。

祖父は名古屋の出身である。それが9才のとき、跡取りのない東京の叔父の寺に引き取られ、養子になった。当然、言葉で苦労したはずである。「名古屋弁」丸出しの9才の子どもが、ベランメイ言葉の本場、東京・深川の町に放り込まれたら、何が起こるか。

祖父は、コンプレックスを力に変える達人だったように思う。郷里の母に、何度も帰りたいと手紙を書いたという。その度になぐさめられ、励まされて、何とか踏みとどまり、自分の生き方を探っていった。

今、イジメの問題が大きく取り上げられている。イジメやからかいは、人を傷つける。あつてはならないことだ。でも、そこから道を探り出す人もいる。くやしさを涙で、次の時代を切りひらく人もいる。祖父の講話を聴いていて、その面白さの向こうに、ひとりの人間としての声が、少し聴こえたような気がした。

仏教豆知識 89

説教

「年をとると話が説教がましくなる」とか「上司から説教されちゃって」など、説教はあまり聞きたくないもののようにです。でも、お坊さんにとって、説教は大切な仕事、一番しなくてはいけない仕事です。

お釈迦さまや、開祖の教えなどを「説いて教える」のが説教ですが、その方法には様々なものがあります。伝統的な方法による「講釈」や、現代的な「法話」、実は落語や講談も、もとは説教から生まれたものです。神田寺の先々代、圓諦上人の法話も、聞いていて飽きない、引きき込まれる、歴史に残る名法話でした。

<令和6年 年回表>

(没年)

1 周 忌	令和 5年
3 回 忌	令和 4年
7 回 忌	平成30年
13 回 忌	平成24年
17 回 忌	平成20年
23 回 忌	平成14年
27 回 忌	平成10年

(没年)

33 回 忌	平成 4年
37 回 忌	昭和63年
43 回 忌	昭和57年
47 回 忌	昭和53年
50 回 忌	昭和50年
70 回 忌	昭和30年
100 回 忌	

○ 土日に法要を希望される方が多いため、予約は電話でお早め
にお願い致します。

・参加人数、塔婆をあげる方のお名前などは、1週間前までにお
知らせ下さい。

・当日は位牌をご持参下さい。お寺に車2～3台駐車可能。タク
シーも呼べます。

○西墓地別院での法要をご希望の方は、必ずその旨のお申し出を
お願いします。

・東墓地の檀家の方でも、西墓地別院で法要を行なうことが出来
ます。

・なお、他の法要との関係で、実施できない場合もありますので
ご了承下さい。

◆ 暑い夏を過ごす ◆

ーコロナ終息の夏の日々ー

コロナ感染も一段落して、夏の行事もコロナ前のように再開出来るようになりました。真理学園幼稚園では年長児の「お泊まり保育」を、神田寺幼稚園では「夏のお楽しみ会」を実施しました。いずれも、肝試しや花火を楽しんだり、「お泊まり保育」ではカレーを食べたり、みんなで一緒に寝たり、朝の散歩をしたりなど、暑い夏でしたが、友だちとの関係を深め、忘れられない夏の思い出を作りました。



△水遊びも楽しみました



△本当に怖い肝試しでした

◆ 彼岸会/神田寺会堂で再開 ◆

9月23日の「秋・彼岸会」から、神田寺会堂での全体法要を再開しました。約4年、自由墓参や、西墓地別院での分散型法要で実施してきましたが、檀信徒の方々に集まっていただき、顔を合わせての法要が行なえたことは、大変意義深いことでした。

当日は、10時と12時の2回法要を行ないましたが、2回合計で約150人の皆さんに参列していただき、10時の法要では総代の方の紹介もすることが出来ました。

墓地までのバス送迎、お寿司の配布など、久しぶりの「お彼岸」に戸惑う場面もありましたが、楽しい一日となりました。

<真理ニュース>

◆年末・年始

神田寺事務所の業務は、年末は12月27日まで、年始1月5日よりとなります。

◆修正会

1月1日(月)午後2時より、神田寺会堂で行ないます。

新年の平和と安寧をともにお祈りします。どなたでも参加出来ますので是非お誘い合わせてご参加下さい。

◆彼岸会

春のお彼岸は、3月20日(水)に実施します。開催方法は、秋の彼岸会と同じく、神田寺で午前10時と12時の2回の法要を行ない、バスで墓地までお送り致します。今回も、お塔婆は事前にお申込み頂き、出欠もお知らせ頂くこととなります。後日、またご案内申し上げます。

◆真理舎の会

12月8日(金)午後1時30分～3時神田寺仏間にて(兼・成道会)

2月9日(金)午後1時30分～3時神田寺仏間にて(兼・涅槃会)

4月12日(金)午後1時30分～3時神田寺仏間にて(兼・降誕会) ※「仏教勤行式」による読経、法句経講話、および懇談会を行ないます。

◆コロナが落ち着くかわりに、悲劇的な戦争が世界各地で起こっています。新しい年が、悲しむ人のない、平和な年となること